Susono City





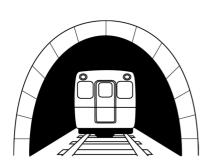
令和2年度

"学びの森"だより

第 10 号 2月1日発行



まきか



音楽で、北原白秋の「待ちぼうけ」の授業がありました。歌詞の意味や曲の感じをつかむ授業です。歌詞の意味は、農夫が畑仕事をしていると、ウサギが木の根っこにぶつかりました。思わぬ獲物を得た農夫は、次の日から畑仕事をやめ、毎日寝転がって、ウサギが木の根っこにぶつかるのを楽しみにしていました。しかし、二度とそのようなことは起こらず、田畑は荒れ果て、笑いものになったという話です。「楽をして得てはいけない。」と言いたかったのでしょう。しかし、この曲が作られた後、戦争の勝利という成功体験に酔った日本軍が、無謀にも戦線を拡大していきました。人間の悲しい性でしょうか。

この授業を見て、私自身の体験が頭をよぎりました。重たいザックを背負って、紀伊半 島の熊野古道の山々に登りに出かけたときです。登るときに峠をいくつも越えましたが、 あまりにも疲れたので、帰りは楽をしたいと、紀勢本線のトンネルを抜けようと考えてし まいました。もちろん時刻表で、列車が通過するかどうか確認しました。地図からすれば、 次の列車が来るまでに抜けられそうでした。妙な自信を持ってトンネルの中に入り、かな り進んだときです。「カタン、カタン。」と音が聞こえたような気がしました。まさか・・・、 もう一度時刻表を見ました。今月号です。気のせいだと思いました。「ガタン、ガタン。」 ますます音が大きく響いてきます。走るしかない。しかし、石ころだらけのトンネルは、 思うように走れません。カーブを曲がってきた列車のヘッドライトに照らされました。と てつもない警笛が鳴り響き、もうだめだと感じました。古い単線のトンネルはあまりにも 狭く、待避所もほとんどありませんでした。こうなったらトンネルの壁に体を押しつけ、 かわすしかないと考えました。しかし、体を壁にくっつければ、背中のザックが列車に引 っかかり引きずられるかもしれない、ザックを捨てる時間もない、怖いけれど逆しかない。 背中のザックを壁に押しつけました。すさまじい風と音が、目の前を通過していきます。 1 両 2 両、どうか仏様・・・必死に拝みました。真っ暗なトンネルに赤いランプが近づい てきました。テールランプだ、よかった。「ふっ」と力が少しだけ抜けたのかもしれません、 「ガツン」と思いきり何かが鼻にあたりました。鮮血が落ちていくのが分かりました。高 くもない鼻なのに、きっと、車両が顔ぎりぎりで通過していたのでしょう。もっと息を抜 いていたらと思うと、震えが来ました。もちろん、今ここにいません。それにしても、な ぜ列車が? (答えは、裏面にて。)

待ちぼうけではありませんが、「楽をして得てはいけない。」ことでした。しかし、人というのは懲りない(私だけかもしれませんが)ものです。鼻の傷が癒えていくうちに、またしても、煩悩が・・・今度は、鉄橋です。トンネルと違い、見通しがききます。この長さならと思い渡り始めました。途中まで来たとき、背後からいやな雰囲気を感じました。まさか・・・後ろを振り向くと、なんと列車が来るではありませんか。予想以上に速いスピードで、ぐんぐん迫ってきます。枕木の上を走りました。しかし、規則正しい枕木は、全速力で走れないものです。またしても、もうだめだと感じました。飛び込むしかありませんでした。今思えばとんでもない迷惑をかけていました。まだまだ修行が足りません。そして、待ちぼうけの意味が心にしみました。

YOU カフェ開催のお知らせ

今年度の「YOU カフェ」は、どの学級にもあり得る、どう支えていけば良いかわからない児童・生徒に対する悩みに!経験豊かな先生方からお話を伺い一緒に考えます。講師は、現在市内小学校で通級指導に携わる西島敏博先生と須藤和葉先生です。自分のクラスの子供たちの顔を思い浮かべて、「あの子には、こう接すればいいのかもしれない」「こんな場面で生かせるかも」そんなヒントが得られるかもしれません。ぜひ、ご参加ください。

〈参加申込書〉

•日 時: 2月24日(水) 17:00~18:30

場所:生涯学習センター 2F「学習室1」

内容:特別支援(子供への対応)のお話

<u>申込みは FAX(055-995-4904)で、学びの森まで送信してください。</u>

申込みしめ切り: 2月12日(金)正午

学 校 名: 小·中学校

参加者氏名:

※「YOU カフェ」は、「自ら学びたい」「よりよい授業や学級づくりをしたい」と願う先生方に、優れた教育実践をされている先生方や経験豊かな先生方を講師にお迎えして、ご自身が大切にされていることや、実践内容についてお話をしていただき、交流する講座です。

第2回 研修主任研修会

今年度の開催は2回と限られたものでしたが、コロナ禍での各校の研修や、来年度に向けた校内研修計画の作成について情報交換することができ、有意義な研修会でした。

学びの森指導員から、「指導案」を書く際、読むときのポイントとして、以下のことを 伝えました。

- ・単元を通して押さえなければいけないことをいつも頭に入れ、その上で1時間の授業で めざす子供の姿を考えたい
- 子供たちにどんな力を付けたいのか、という先生の思い
- ・授業の流れの中の支援(こういう手立てをした時の子の姿) 各校独自の指導案の形はあっても、学び手の視点に立って書かれた指導案は誰が見ても わかりやすいものです。ぜひ、参考にしてください。

く参加者の感想よりン☆今振り返ってみると、「こうすれば・・・」「ああ、こういうことか」と思う取り組みが数多くあった。学校として、研修部としてのやり方は、うまくいったとはいえないが、次に繋げていくことを考えると、いい材料になったと思う。来年度どうなるかわからないが、今年の反省を活かせるようにしたいと思う。

☆他校の実践を聞ける良い機会になった。まねしたいなと思うような内容も多かったので、可能ならば実践していることの資料など、市の共有で見られるように(過年度のものも残していく)なるといいなと思った。(↓☆) また、指導案の書き方、3観点評価など詳しくないことも多いので、研修主任が情報共有だけでなく、専門的なことを学べる研修を市でやっていただけるとありがたいと思った。

☆☆☆エデュコム:【学びの卵】ショートカット→21 研修→R2 研修主任研修会

表面の答えは・・・ **貨物列車** でした。



編集・発行:"学びの森"

〒410-1102

裾野市深良 435 番地 生涯学習センター2階

TEL: 055-995-4903 FAX: 055-995-4904

http://www10.schoolweb.ne.jp/weblog/data/2240002

